

# 成果報告書

## I. 研究概要

氏名	レザウル・カリム・フォキル
所属	ダッカ大学現代言語研究所
招聘研究回 (招聘研究期間)	第8回、2013年10月～2014年9月
招聘研究テーマ	日本語とベンガル語における関係節の対照研究：形態統合論的分析
研究目的	本研究の目的は、四つのパラメータ、即ち i) 関係節における名詞化の作用、ii) 主節と関係節の連携性、iii) 参照的一貫性、iv) 名詞句の接近可能性階層、に沿って、関係節における日本語対ベンガル語の対照分析を行い、日本語における関係節の言語固有の特性を明らかにすることである。
研究概要：	<p>関係節による従来の用語は、英語では形容詞節、日本語では連体修飾節であり、ベンガル語では特に用語がなかった。20世紀に言語学に「関係節」という専門用語の導入以来、世界の諸言語に於いて関係節の記述が行われている。そして極最近ベンガル語と日本語に於いて、関係節は課題となっている。言語学者は、日本語の関係節を多様に記述しているからとして論争をもたらしたが、ベンガル語ではその記述について殆ど結論に達している。本研究では、次の四つの段階に分けて、日本語とベンガル語における関係節の対照分析を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第一段階（2013年10月～12月）：研究題目に関連する資料、著作、論文の検索、収集を行い、先行研究の文献収集し、参考文献のデータベースを作成した。</li><li>第二段階（2014年01月～03月）：先行研究の文献を取りまとめ、日本語対ベンガル語の対照分析の理論的な土台を作った。そして研究の理論的な土台において日本語対ベンガル語の対照分析の準備を整えた。</li><li>第三段階（2014年04月～06月）：形態論的、統合論的、又は形態統合論的なレベルにおいて日本語対ベンガル語の対照分析を行った。</li><li>第四段階（2014年07月～09月）：研究の成果を取りまとめ、学術論文と学会発表論文を執筆した。そしてその執筆した学術論文「Revisiting Relative Clauses in Japanese, with Reference to Bangla」は、論文集『国立国語研究所論集』第8号（2014年11月）に掲載された。又、その研究成果の一部は、「On the Formation and Interpretation of Relative Clause in Japanese.」をテーマにし、<i>The Annual Meeting of the Linguistic Association of the Southwest</i>. 18-20 September, 2014. California State University, San Diego にて発表を行った。</li></ul>
展望：	<p>関係節を研究する過程において、関係節は、脱文化・名詞化（Nominalization）と密接な関係にあることが分かり、関係節と脱文化・名詞化（Nominalization）の関係について更に探求する必要があると思った。そして次の機会にこの研究をするつもりです。</p>